

かえるのうた

第12号 2018・1月

ほんにかえるプロジェクト発行

汪楠責任編集



西原瑛子 画

教皇様をふりかえる 新しく歩みだすために



フランシスコ教皇は2013年3月13日、第266代教皇として就任しました。最初のミサでの説教のテーマは「**動き**」でした。

教皇としての心構えが述べられています。2018年の始まりに、教皇様の初心に触れ、私たちも年初の志をたてましょう。

動きには次の3つの動詞があげられました。

歩む 主のみ前を、主の光の中を、つねに歩む。

日本では“お天道様が見ている”と言います。人をだましても、自分自身をこっそりだましても、騙しきれない絶対的な存在がある。騙し騙されている自分をご覧になっている。そういう方の前を歩みたい。

築く 隅の親石(主ご自身)の上に、キリストの花嫁である教会を築く

私も教会の構成員の一人です。隅の親

石でも、大黒柱でもないかもしれないけれど、敷石の下の砂利でもいいかも。敷石を支える小粒の砂利。私という教会をどう築いていくのか、設計図を描いてみましょう。

告白する イエス・キリストを告白しなければ、物事は進みません。……イエス・キリストを告白しなければ、悪霊の世俗性を告白することになります

神と共に歩み、教会を築き、キリストを告白することは決して易しいことではありません。しかし、それでも、勇気をもって、主の十字架とともに、主の前を歩いてくださいますように。と教皇は私たちに願っています。

唯一の栄光である、十字架につけられたキリストを告白してくださいますように。そうすれば、教会は前進するでしょう。

キリストを告白するとは、日常的に何を告白すればいいのでしょうか。私の罪を告白することです。そして、一人では背負いきれない その罪を担って下さった方がキリストであるということ。そのキリストが“私はあなたの友”とおっしゃっていることを信じることです。

教皇様と共に、一人ひとりがそれぞれの人生を、新たに歩いてゆくことができますように。プロジェクトは自立更生を支援します。

(文責 gabrielaiko sr.井手愛子)

知恵と努力で困難を乗り切る

代表 田中伸彦

武蔵野の天空とおく またたけり
蒼きシリウス 新たなる年



会員の皆様、新しい年をそれぞれの場所で、それぞれの思いを抱いて迎えられたことでしょう。私も東京の西のはずれ武蔵野で新年を迎えました。

皆様の温かい力強いご支援のお蔭で「ほんにかえるプロジェクト」は昨年の秋、無事に2周年を迎えることができました。会員の皆様方本当にありがとうございました。

プロジェクト運営上の人的、経済的困難さは事務局長汪楠さんの会報等での報告でご承知の事と存じます。今年も前途は多難ですが、スタッフの知

恵と努力でこの困難な局面を乗り切る覚悟でおります。

本を通じてつながり合うこのプロジェクトの存続は皆様の信頼とスタッフの熱意にかかっていると思っています。

本年も変わらぬご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。

私事ですが、2018年は戌年です。私は1946年の生まれで今年には6回目の年男です。

冒頭の句で歌ったようにシリウスは、おおいぬ座の一等星で冬の夜空で蒼白く輝く星です。

天空の星は何光年もかけて、その光をこの地球に届けます。

今、私たち一人ひとりがそれぞれ困難な日々を送っています。

それでも「ほんにかえるプロジェクト」の発するささやかな光がいつの日か皆様のもとに本や便りとともに届くことを祈っています。

以前、会報に書きましたが、いつも頭に浮かんでくる言葉があります。

”苦しみは変わらない、

変わるのは希望だけだ”



いのちのみちゆき

—姉とふたり—

Gabrielaiiko s.c.g.

二つ違いの姉というのは、姉でありながら友達のようにも、同僚のようにもあつた。

小学校低学年の頃、父の職場運動会に参加した。子供たちの徒競走もあり、小っちゃい子、大きい子ぐらいの大雑把な組み分けで走った。私は最後尾で、なんのご褒美もなく、グランドの片隅で一人しょんぼり土いじりをしていた。そこへ

姉がかけて来て「ごめんね、今度は一緒に走ろう？」返事がないので「私が愛ちゃんの後ろを走るから、ねっ？」少しいじけた妹を必死に慰め励ましている。

なんて優しいのだろうと思って聴いていた…。

私が修道院にはいったとき、母の名代として私を連れ戻してきたのも彼女だった。姉妹というのは話し合い理解することができる。「お母さんに怒られるわね」



と言いながら「しっかりやって」と帰って行った。その後も、仏和辞書を送ってくるなど、後方支援部隊として修練期を支えてもらった。

やがて姉も結婚し、3人の子の母親になった。京都に定住してからは、ちよくちよく遊びに行った。生まれ故郷が長崎なら、姉の住まう京都は第2の故郷であつた。

子供たちも成長し、姉には7人の孫ができた。初孫誕生の時には、“孫がこんなにもかわいいとは”と弾んだ声が、受話器にあふれるように響いていた。

夫婦間の確執がなかったとはいえないだろうに、機能を失っていく義兄を、実

によくいたわるように面倒をみていた。在宅でこのような人の介護を受けられるのは幸せだな、と思わせるものがあった。義兄の最後の言葉は

“ありがとう”だったと聞く。父も母に“ありがとう”を残して旅立った。

その後、乳癌を患い、続いて膵臓癌を併発して治療に専念していた。通院の報告を受けるたびに、病状が悪化しているのが解つた。「腹水が溜まっている

のか、おなかかがるの」。おなかはやわらかい？と聞き返す。「それが硬いの。」とんでもない。腹水なんかじゃない。腹膜に転移した癌が急速に成長してる症状だ。全員被爆の我が家の死因は癌である。覚悟を決めた。間もなく、病院が併設しているケア・ホームに入ることになった。「それがね、行ったら一人部屋をつかっていい。料金は4人部屋と同じでいい」と、施設の特別な好意として喜んで、電話してきた。

“冗談じゃないっ！”鬼気迫る思いに圧倒される。すぐに長男に電話した。

病院側は余命1週間と見ていることよ。皆もその覚悟しないとだめよ。

私もすぐに3泊4日の予定で京都に行った。北山の山裾の、そのホスピスは閑静で清らかだった。向かいに比叡の山を望見し、車椅子の姉と黙って眺めていた。

我が家は般若心経の家である。姉は数珠を手放すことなく、いつも熱心に、朝夕心経を唱えていた。ベッドでも手を合わせて祈るしぐさをし、数珠を求めた。

病を発したころ、虚空菩薩(こくうぼさつー無限の知恵と慈悲をもつ)があらわれ、そなたの身は引き受けた、と言われたという。痛みがないのはそのせいね。私の守り本尊はお不動様なのに、とも。

3日間同じ病室に寝泊りし、この世での最後のときを、できるだけ多く共有しようとした。病室の空気の密度が、微妙に動き、姉の向こう側に、しっかりと姉を引き受けている大きな存在を感じるようになった。

虚空菩薩を内包した、父なる神様の確たる実存。あちらの世界への、確実極まりない身元引受人。

姉を挟んで向かいあっていた。

私が手をだせる世界ではなかった。靈に満たされた時空間で、ずっと「仏説摩訶般若波羅蜜多心経(ぶっせつまかはんにゃはらみったしんぎょう)」を唱えていた。存在を説いたお経である。

あまり、多くを語らなかったが、語る必要もなかったのかもしれない。

いつしか、枕辺の数珠もバッグのなかにおさまり、もう、探さなくなっていた。108の煩惱を繋いだ数珠は祈りに磨かれて、素朴にときはなたれていた。

旅立ちのとき・・・

二人して天国への道行きをはじめた。静かにゆっくりゆっくり歩を進め、門前に着いた。

お別れのときがきた。

姉はやっと出せる、か細い声で、しかし、はっきり“長い間ありがとう”と言った。

事務局からのお知らせ

事務局長 汪 楠

カンパ用書籍の申し込み

ほんにかえるプロジェクトは内外の会員からいただいた年会費と寄附で運営しています。しかし通常経費の半分も賄えない状態が2年も続き、解散の危機に瀕しています。そこで外部の会員に緊急支援を要請し、全国の約140か所の修道院の本部にも支援を要請しました。

その一方では、内部会員(受刑者)からも自発的な寄附をいただきました。無償で提供してきた書籍に関しては多くの内部会員は送料を負担して、この活動を応援しているほか、本代まで寄付して買取までしてくださる会員が増えました。そこで協議した結果、無償本とは別にカンパ用の書籍リストを作り、内外の会員に買い取ってくださるように呼び掛けることにしました。どうか協力をお願いいたします。

今回のカンパ用のリスト(カンパ協力A)は準備期間があんまりなかったために、カンパの金額は200円と統一しました。送料はPJが負担します。

予定として、単行本のリスト(カンパ協力B)も作ります。

カンパの金額は1冊300円に統一します。さらに運営費をねん出するために昨年はアマゾンに出品していました。毎月約1万円の粗利益が出ていました。

内外の会員からはアマゾンに出品している書籍を買い取りたいという申し出があり、こちらも準備しています。

(カンパ協力C)の金額は統一ではなく、アマゾンの最安値に設定しています、ご了承ください。

カンパ協力リストのAリストとBリストに関しては送料はPJが負担します。

アマゾンにも出品している書籍に関しては本来は257円から360円までの送料と手数料がかかり、アマゾンに支払う必要があるのですが、直売になりますから、こちらは1冊につき100円の送料を想定しています。

新規入会について

ほんにかえるプロジェクトは設立して2年が経ちました。資金難が深刻化し、解消方法としては収入を増やし、支出を減らすしかありません。活動規模を縮小させたのも支出を抑えるための措置でしたが、既存会員にも誤解されやすいのですが、検索や購入代行で手数料として寄付をとっているわけですから、もっといっぱい依頼すれば財政を助けることになると考えている方が多い。実際は依頼に対応すればするほどスタッフの負担が大きく、帰宅時間を惜しんで泊まり込みで対応する日々が続きました。

収入を増やす方向では外部の会員に寄付をお願いしております。しかし善意のある方はすでに寄付していますし、このご時世ですからどの家庭も余裕があるわけではありません。スタッフたちが率先して寄付していますが、それも限界

に来ています。そして全国の修道院に140通の寄付のお願いの手紙を出しましたが、面識もなく関係のない団体に寄付する余裕がないのは団体でも同じです。

そこでいろいろと協議した結果、拒否してきた新規入会を再開し、受刑者会員にも支援の実費を負担していただく形で運営していくことを決めました。今後の新規入会に関してはすべて2018年度の新料金システムを適用させていき、少しでもこの活動を長く継続していけるように協力し合っていきたいと思います。なお既存会員の中にも自発的に新システムを適用し、支援の実費を負担して下さる第1部の会員がいます。ご理解に感謝いたします。

現状では お問い合わせの手紙に対して、2部会員の入会申込書を送り、写真印刷や検索を含むフルサポートの1部への入会をお断りしています。そして返信の中でこのようにお伝えしています。

お聞きしているかもしれませんが、プロジェクトは深刻な財政難で、活動継続も困難な状態です。こちらはメインスタッフが極貧で、ご飯を食べられない日が続くこともあります。信じがたいだろうけど、事実です。

今スタッフは出稼ぎと称して、日雇いバイトをし、食事費と活動費を数日ためてはまた活動を再開する状態です。年間赤字は100万円を超し、経費削減も限界にきており、紙はもらってきた古紙で

すし、パソコンもプリンターもすごい古いものを使っています。それでも年間で1300回も受刑者に本を送る活動を継続できたのは元受刑者としての意地だけです。

財政難の原因は手数料を極端に安く設定したためです。協議した結果、今後の入会者に対して、実費相当の寄付をお願いすることにしました。

簡単に説明しますと、登録料の500円は廃止し、年会費は500円から2000円に変更。検索料は一枚につき50円の寄付から100円に変更。写真はL版150円、2L版は250円。画素数の高いものを選ぶと写真はきれいですが、依頼されたものは必ずしも画素数の高いものをネットで見つけられるわけではないので、荒い写真になってしまう場合があります。SNSの検索は1件1000円で、印刷結果は1枚につき100円になります。

このような料金設定について高いと思うのも当然だと思います。でも固定経費だけでも100万円を超すこの活動を継続していくには活動資金が必要です。どうかご理解ください。

もしお金がないのであれば、本を無償で提供することができます。これが本来の活動ですから。その他の依頼はいわば事務局長の私が元受刑者として、こんなことをしてくれる人がいたらいいなって始めたもので、本来の業務ではない。にもかかわらず、依頼が殺到して本来の活動を圧迫しています。アダルト雑誌の

購入までしているのもそういうわけで、分かっていたきたい。

あと宮城やいくつかの刑務所はアマゾンで注文したものを直送できないので、すべては事務局にいったん発送させ、転送しています。転送料は300円です。一回の転送で3冊を入れるようにしていますが、写真集とか大きい本、重い本は無理ですので、1冊になる場合もあります。

正直の話、2部は已む得ず作ったもので、自分の中では営利に走っている感があって、気持ちいいものではありません。財政的に助かるかもしれませんが、会員との交流がなく、事務的過ぎるよう感じます。でも1部だけではやっていけないのも事実です。この矛盾を解消できないものかと常に悩んでいます。1部に入会されたいとのことですが、個別で判断して認めることはできます。でも条件があります。

一般的などころでは、まず事務処理上のミスに対して寛容であってほしい。本を発送する際、高齢スタッフもいます。私もチェックしていますが、信用していないみたいでいちいちチェックするわけにもいかないのが現状です。もちろん私もミスします。計算はほぼ私がやっていますが、計算ミスがあります。会員が得する場合も多々あるのですが、損するものなら数円でも苦情が来ます。幸いにも活動規模縮小の際に退会させましたので、今の会員はととても寛大です。苦情の手紙は以前多い時では5通も着ていた

のが、今ではやんわりと指摘する手紙ですら数か月に1通ほどです。

アマゾンで本を注文しています。システムを理解してほしい。本気で1円で本を買えると思っている人がいます。1冊につき257円以上の送料がかかります。業者はその中から利益を出しています。まとめて注文し、まとめて発送させれば送料は安く済むのに、なんで1冊ごとに送料をとるのですか、ボランティアをかたって金儲けしてんじゃねえよと言われたことがあります。ちなみに注文する際は最安値で買っていますが、大差がない場合はコンディションによっては数十円高い値で買うこともあります。また、信頼関係ができてからはトータルの予算を見て、指定の上限金額を超えたものでもほかが安かった場合は注文してくださいという方が多く、そうしています。

アダルト雑誌も注文可能です。ホームレス支援の一環で書籍を買い取っています。既存会員は送料込みで3冊(ジャンルはお任せ)1000円で買っている人もいれば、アマゾンで買ってくださいという人もいます。外したDVDは障がい者施設に送っています。

切手は注文が多い。おかしいことに郵便局が発行している切手なのに、郵便局どころか、郵便局のオンラインショップでも売っていません。だから銘柄を指定しなければ、郵便局に行ったついでに買ってきてあげることはできます。事務局に送られてくるのは刑務所で買ったも

のが多いので、キャラクターデザインはほとんどありません。かわいいものなら何でもよければ買ってくることができます。入会時の審査に関しては明確な基準がありませんでした。この2年間、更生支援をしてきました。その経験を踏まえて考えますと、まずどこの団体でもそうですが、反社会的勢力に現在でも所属している人を受け入れることはできません。銀行では口座を作れませんし、携帯電話も借りることはできないのはこのご時世です。

私たちは更生を支援する団体です。やくざをやりながら更生できるとは思えません。偽装破門とかもいろいろあります。在所中、または出所後でも暴力団関係者と判明した場合は、2万円の損害請求を求める場合があります。

次に入会させたくないの薬物常習犯です。過去のクレーマーはほぼ全員が薬物常習犯でした。攻撃心が強く、猜疑心も異常に強いので、計算ミスがなら1円でも許さない構えで、対応が遅れると脅迫してきます。こういう輩とともに歩むことはできません。つきましては薬物2犯以上の方は原則として入会をお断りいたします。

薬物常習犯の次に入会させたくないの性犯罪の常習犯。更生していただきたい気持ちはあります。しかし私たちに性犯罪の常習犯を更生させるだけのノウハウがありません。入会申込用紙に罪名を書く欄がありますが、任意です。薬物常習犯や性犯罪の常習犯であるこ

とを隠しての入会も可能ですが、判明した場合は年間で2万円の損害請求を求める場合があります。

既存会員は外部からの手紙や郵送物で注目され、ほんにかえるプロジェクトの存在を話していると思います。多くの新規入会はそういうロコミで入会を希望してきています。プロジェクトは一貫して新規入会に消極的で、その理由として、第一は受け入れるだけの体制(財政難)が取れていないこと。第二は既存会員の支援を重視していること。第三は刑務所側の妨害を招きたくないこと。

刑務所側の妨害はかなり深刻です。恣意的な内規変更でプロジェクトは対応に追われることが多々あります。例えばアマゾンで注文した書籍を業者が刑務所に直接発送した場合、社名しか表示していないものは誰が送ったのかわからないと詭弁して、受け取りを拒否することがあります。そうなると会員はお金を払ったのに商品が届かないとして、苦情を寄せられます。ひどい場合は出所時交付とされ、届いたのに受刑者本人に告知すらせず、受刑者とプロジェクトが手紙でトラブルしているのを傍観します。今でも毎週のように刑務所から照会状が来ます。本当にそちらが送ったかどうかの確認の手紙です。照会状には当の受刑者の名前すらなく、郵送物の内容もなければ、到達した日付もありません。送付者には送った日付と、発送した宅急便の営業所、もしくは郵便局の所在地、そして郵送物の詳細(本のタイトルを1冊ずつ)

記入することを求められます。受刑者会員からの依頼に対応するためには膨大な時間がかかるのはこういうわけがあるのです。この照会状に対応するためにはすべての郵送物をデジカメで撮影し、日付と会員名別で整理しておく必要があります。最長では一年前の郵送物に関して、会員自身から苦情を寄せられ、精査したところ、本人が在所しているにもかかわらず、不在として処理され、郵送物が返送されていました。その返送された荷物を事務局は1年間も保管し、苦情に備えていたから、誤解がとけました。

事務局からの郵送料について

プロジェクトの設立時に、書籍の郵送は郵便局を利用し、受刑者から受け取った切手で送料を払う予定でした。宅急便よりは安いと考えていました。その後、クレジットカード決済のクリックポストというサービスを受けることができ、1キロまでの荷物を164円で送ることができるようになりました。しかし発送作業にはネット環境が必要で、月間で15,000円の回線使用料とパソコンとプリンターが必要なうえ、クレジットカードの年会費も必要でした。実質上、1回の送料は約400円で、半数以上の会員にそのうちの200円を負担していただき、残りはプロジェクトが負担して財政を圧迫してきました。

プロジェクトは初年度で約1400回のクリックポストを利用し、手紙やライトパックなどを加えると年間1800回も受刑者に発信発送しています。3年目の今は年

間で2500から3000回の発送が予測され、財政状況を考える上では軽視できない問題となっています。

設立当初からゆうメールを使ってはどうかという提案があり、ゆうメールと明記された封筒をわざわざ送ってくれる会員もいます。しかしゆうメールは契約が必要で、ゆうメールと明記しただけでは安くなりません。このたび、やっと審査が通り、契約することができました。今後はこのゆうメールを利用していくので、詳細をお知らせしたいと思います。

ゆうメールは後納と別納があります。別納とは現金もしくは切手で支払うことです。プロジェクトには切手のストックがあり、それで支払えば換金せずに済むのではと安易に考える会員が多いのですが、料金は割高で、150g以内の場合、切手で払おうとすれば180円です。後納（厳しい審査が必要）の場合は口座からの引き落としとなり、切手は使えませんが、126円で送ることができます。これは何を意味しますかという、プロジェクトでは180円の切手を預かった場合、金券ショップで換金して126円として計上しています。受刑者会員は30%の損をしている考えです。しかし、郵便局のサービスを利用しようにも、郵便局も切手の額面の70%で割引いて徴収しているのです。

さらにおかしいのは、定形郵便は50グラムまでは切手では82円で送れますが、ゆうメールでは現金で115円が必要

です。つまり一概にゆうメールが安いとは言えません。

整理しますと、事務局では一般郵便(切手のみを使う)、スマートレター(180円、2センチ1キロまで)、レターパックライト(360円、3センチ4キロまで)、レターパックプラス(510円、4キロまで)、クリックポスト(164円、1キロまで)、ゆうメール(重さに応じての変動制、50グラム115円から、2キロまで)と、6つの郵送方法があり、どれが一番安いのか、その都度計算しなければなりません。この難解な送料システムをスタッフですら把握するのが難しく、混乱しています。

新年度からは、会員が把握しやすく、スタッフも混乱しないために送料を固定制とします。

文庫本と新書は1冊ごと150円、単行本は1冊ごと250円、写真集は1冊ごと300円とします。まとめたの発送の場合は割引も考えましたが、財政難のため、ご協力を願う形でご了承ください。

アマゾンに注文して、事務局を利用しての転送についてもこの料金システムを適用します。転送はあくまでも事務局が便宜を図って提供してきたサービスであり、ご承知を願えない場合は転送を中止します。

なお、内部会員の提案で、業者にたいてい商品を送る際に、封筒の表にプロジェクトの住所と名前を明記したうえで刑務所に発送するようにすることで転送しなくても済む方法を見つけました。

しかし、アマゾンのシステムとしては、まず注文しなければこういった要望を伝えることができないことになっており、いったん注文してしまうと、対応してもらえない場合はキャンセルされることとなります。一方的なキャンセルを繰り返すと購入できなくなります。そしてその要望はメールの形で業者に転送され、業者が見落とすと、商品は刑務所に直送され、受刑者に届かず、国庫に入る場合もあり、トラブルに発展するケースが多発しています。これに加えて、転送には送料がかかり、会員の負担になります。転送料目当てでわざと転送にこだわっていると思われる節もあります。

無償本の提供については多くの会員が送料を負担してくださり、大変助かっています。今後は送料システムの変更に伴い、1回につき300円もしくは400円の寄付をお願いします。ただし、送料を負担してくださる会員にのみ適用し、2部会員及び送料免除を申請した会員は旧来通り免除いたします。

慣例として、新料金システムについて納得できない場合は、事務局に申し出てください。旧料金システムで対応いたします。ただし会員資格の更新ができない場合があります。料金システムの改正はあくまでも財政難を解消し、活動を継続していくためのものであり、皆様の協力がなければ活動の継続は到底無理であることをご理解ください。

創立2周年記念事業

—4月からはじめます—

*内部会員に誕生カードを!!

人は朝起きてから寝るまで、いったいどれくらいの決定事項をこなしているのだろう。塀のなかでは、厳格なプログラムがあって、何も自分では決めていない、と感じている人が多いかもしれない。ところが、そうでもないのです。一度、試算してみてください。かなり多くの決定をしています。

自分の人生も決定すること無しには一歩も進みません。

これほど多くの決定事項が自由意志に任されているのに、自分の出生についての、意思決定はゼロ。居住選択権もゼロ。なぜ？

この事実は、誕生が他者の意志によることを示してはいませんか？ 誕生の意味を問い続ける機会となるカードを考えました。

そこで、カード希望者は3月迄に、生年月日または誕生月日を事務局にお知らせください。

*偲ぶ会

ほんにかえるプロジェクトは40名の無期囚の更生支援をおこなっています。有期刑の会員も含め、多くの人は殺人などの重罪で服役している。被害者

に対して後悔の念を持ち、改悛したい気持ちでいますが、被害者家族は気持ちの整理ができず、加害者側を許すことができないため、または被害者側と連絡が取れず、自分の気持ちを伝えることができない。

そのため、多くの受刑者は写経や宗教教誨を自発的に希望し、被害者に対しての気持ちを祈りの形で表したいと強く望んでいます。

また、受刑中に家族や知人をなくされる方も多く、その弔いもままならない状態にいます。

ほんにかえるプロジェクトは更生支団体です。本を送り、人生のリスタートをサポートしています。私たちの活動で多くの受刑者は受刑生活が有意義になったと感じるようになりました。日々受刑者から感謝のお手紙をいただき、精神面も支えになったと実感しています。そして精神面のさらなる良き変化を持っていただくために、一部の刑務所で行っている命日会をヒントに、**毎月の30日に受刑中の会員と、サポートするスタッフがともに祈る場を設けることにしました。**目的としては、祈りを通じて、自分の思いを亡くなった方に伝えたいと思います。

刑務所では夜9時に消灯されます。この時間帯なら静かに祈ることができます。刑務所の外にいるスタッフをはじめ、支援者の皆様にも共に祈っていただきたい。私たちは憎しみを乗り越えなければならない。他者に寛容でなければこの社会はもっと生きにくくなると思います。

受刑中の皆さん、亡くなった被害者、または家族や友人の冥福をともに祈りたい場合は、そのお方の名前、命日をわかる範囲内で事務局にお知らせください。ともに祈りましょう。



2017年12月10日

* * * * *

2周年記念寄付

恒常的にプロジェクトはマンパワー・マネーパワー不足に苦しんでいます。これまでの事務局長発信で、ご承知のとおりです。「解散するしかない」との声もありました。しかし、互いに築いてきた信頼関係を、失うことはできません。それは無責任にも思えます。

そこで初めて外部会員と教会関係者に「2周年記念寄付」をお願いしました。特に外部会員の方々の理解と支援は篤く、10万円以上の寄付をいただきました。この場をかりてお礼申しあげます。有難うございました。

10万円は大金のようですが、運営費等を勘案すると、すぐに消えていく金額でもあります。

内部会員の皆様、スタッフ以外にも皆様の支援者が70名もいることを、知ってほしいです。

内部会員の方々もプロジェクトの存続を願って、寄付をくださいました。これから協力できる方も宜しく願いいたします。がんばろう！今年も自立更生！

お久しぶりです。お元気ですか。衣類の差入れありがとうございます。心より感謝致します。

出所まであと数日となりました。私が社会を離れて約8年少々となりますが、今回の逮捕により大切な友人、知人、身内も失いました。身内である父には今迄何度も手紙を書き、返信を待っていましたが、一度も返信をくれることなく、先月11月29日に母から届いた手紙で父が先日(平成29年11月25日 AM7時頃)他界したことを知りました。74才でした。死因については書いてありませんでした。便箋1枚、父の他界を知らせる手紙です。29日9時30分頃に処遇に連行されたので「なんで?」と思っていたのですが、処遇の取調室に座っていると工場主任がきて母から届いた手紙を私に差し出されたので・・・なんかイヤな感じがしたのですが・・・

私は小さい頃から父によく殴られてきました。母も同じく父に殴られてきました。私が4才くらいの時は本当にボロアパート住まいで、1部屋にトイレも風呂もなくアパートの出入口に共同トイレがあり、風呂は週2回銭湯に行っていました。そんな

な思い出を今は思い出しては…涙を流している自分が情けなく…今はなんとか少し気持ちは落ち着きましたが…

父の死を知った頃は工場や倉房に行く途中に行進をしている最中に「俺はなんでこんなことをしているのだ…」と思い、情けなくて涙が流れたものです。今は頭の中は真っ白で何も考えられません。ただただ悔しくて情けない。

汪さんが設立をしたプロジェクト、私は汪さんの「志」が嬉しかったのです。お金がない受刑者、人とつながりを持って良くなった受刑者たちの為になにかをしたい…

汪さんのその優しさ・温もりはどこからくるのか?どんな人なのか?若き頃は暴走族の総長(訂正;初代)をしていたとのこと…私もそこは同じ…私はカワサキ KH500に乗っていました。

プロジェクトと向きあって2年が過ぎます。私は私に出来る形で向き合ってきました。「わんレター」おもしろかったです。(笑い)私に予算があればきっとホームレスから買い取った「エロ本」を注文していました。男の事情でこちらの方は井手様にお問い合わせできませんからね。(笑い)見たかった～

私がここまで頑張れたのも汪さん、井手さん、本田さん、田中さん、プロジェクトの皆様方の温かい支えがあったからだ強く思っております。本当にありがとうございます。

汪さん、プロジェクトの運営はきっと大変な事が多いと思います。私にはプロジ

ェクトを支えられる資金は持ち合わせておりませんが、プロジェクトの継続を心から願っております。お金を持っていていように利用をするだけならば、差入代行屋に頼めばいい訳であり…私は汪さんが想いをよせる志はそんな便利屋的な所で無いと信じております。人とのつながりを失った者…お金がなくて私物購入本ができない者…そういった方々によりそうプロジェクトであってほしいと心から願っております。確かに運営費等の問題は壁となる所ですが、受刑者の声を SNS で発信したり有料サイトを作ったり…きっと形はあると思います。その件につきましては私の出所後お話をしたいと思っております。

出所後、父の 49 日を迎え終えたら必ず時間を作って会いに行きます。とりあえず電話だけでも出所後させて頂きます。汪さん本当にありがとうございました。



その2

獄中会員も一丸となって

家族とは断絶しているために、外に何かを依頼できる人がいない中で、ほんにかえるプロジェクトとの出会いは正に天からの助けでした。

ただし、どこかの差し入れ業者のように営利目的で多額の負担を強いられるのは正直無理です。その上刑務所においても社会より割高な日用品と定価でしか買えない本はかなりの経済的負担となります。

そんな状況に一石を投じてくださった皆さんには本当に感謝しかありません。

しかし、感謝するだけでは、皆さんの努力や志をつぶしてしまいかねません。私達もできる限りの協力をしなければならぬと、考えており、ほんにかえるプロジェクトはスタッフや、ボランティアだけでなく獄中会員も一丸となって作り上げて行かなければならぬと、考えています。

死刑について

昨年12月19日に二人の死刑が執行されました。そのうちの1人は犯行時19歳の少年だったこともあって、論争を呼びました。

更生支援活動をしていると、やはり死刑についてどう考えていますかと質問されることがあります。死刑賛成派ですか、反対派ですかと聞かれ、論争に巻き込まれそうになります。

そこでプロジェクトのスタッフと死刑について話す機会を作り、いろいろな意見が出ました。要は賛成も反対派

もいることがわかりました。

私自身ははっきり言って死刑賛成派でした。しかし、更生支援活動を始めるにあたり、いくつかのボランティア団体で経験を積み、多くの宗教関係者と話すうちに考えが変わりました。

とくにこのプロジェクトを立ち上げ、不特定多数の面識もない受刑者とかかわるようになってからは、より罪とは何かについて考える機会を与えられた。

罪には法律用語としての罪と、宗教用語としての罪があります。

まず宗教用語としての罪。

神道用語としての罪

『延喜式』に収録される神道における罪の観念。なお、神道における罪は「原罪」ではなく、「祓・禊」によって濯がれると考えられていた。

仏教用語としての罪

身・口・意の三業によってつくられる罪。

キリスト教用語としての罪

アダムとイブがエデンの園で犯した罪が人間の本性を損ねたため、以来人間は神の助けなしには克服し得ない罪への傾きを持つことになったという思想。いわゆる原罪ですね。

法律用語としての罪

一般には、法によって禁じられ刑罰が科される事実・行為。刑法学上は犯罪を「構成要件に該当し違法かつ有責な行為」と定義する。

この罪について考える必要があると思います。私自身も罪を犯し、2 回服役しました。組織に所属し、時には敵と裏切り者に対していわゆるケジメをとらせる立場にもありました。そして服役中にも多くの殺人犯と接する機会がありました。さらにこの活動では 40 名以上の無期懲役囚と死刑囚ともかかわっています。もちろん有期刑でも殺人犯がいます。

この経験を踏まえて言いますと、私は死刑には反対します。

罪はあくまでも自分で内心から考え、感じるあるいは意識するものと考えます。罪を感じた時に初めて償うことができます。

死刑とは人を殺すことです。殺人とは人を殺すことです。人を殺してはいけないと教えるのに、人を殺して戒めとすることはおかしいと思います。

つまり「死刑は、犯罪者の生を奪うことにより、犯罪を予定する者に対して威嚇をなし、犯罪を予定する者に犯行を思い止まらせるようにするために存在する」（一般予防説）という考え方には違和感を持ちます。

「死刑は、矯正不能な犯罪者を一般社会に復して再び害悪が生じることがないようにするために、犯罪者の排除を行う」という特別予防説にはもっと反対します。

矯正不能な犯罪者はそもそも存在す

るのでしょうか。私たち人間には生まれ持つての良心があります。過ちを犯しても、それを立ち直る力を持っています。私たちはそれを信じ、更生支援活動をしています。

私たちには人格があります。犯罪はその人格にそぐわない場合が多い。そこを直すことが必要があり、殺しては直すことも変えることもできなくなります。殺人は被害者の人権を奪う行為というなら、死刑もまた誰かの人権を奪う行為に過ぎないと私は思います。

犯罪者は反省していないから再犯するのでなく、反省する道が用意されていないように思う。社会から排除するだけでは更生できさせることはできません。応報刑の時代から教育刑の時代に入っています。日本でも 2006 年に明治時代から変わらなかった監獄法が改正され、名称も「刑事収容施設及び被収容者等の処遇に関する法律」に改正され、教育刑にシフトすると明記されています。

まとめますと、プロジェクトの発起人であり事務局長でもある私は、死刑に反対します。罪を犯した者に償ってもらう必要があると同時に、償うもしくは構成する権利もあります。犯罪に至った背景を見ずに、個人の責任だけを追及することに強く反対します。元犯罪者として更生を強く望み、赦し、そして赦されたい。（汪楠）

私の犯した罪の深さ

12月15日、当所の教誨堂で「命のメッセージ展」がありました。自分の犯した罪のために、2名の尊い命を奪ってしまいました。事件から45年、あの時の私の狂気な心を、あの恐ろしい精神状態を1日として忘れたことはありませんが、命のメッセージ展に展示されている遺族の方達の心を思いますと、私の犯した罪の深さに身が震えました。終生用いの心を忘れず生きることが私の責務であると思っております。
—中略—

私は4歳の時に養子に出されましたので、母を恋うる心と、養子に出されたという心の葛藤を抱えた人生を送りましたが、子を思う親の心は、私の親も同じだと思い至りました。

死の淵に立ち 金魚袋製作

僕は死刑囚として、死の淵に立ちながらも、死の陰の谷を行くとしても、私はそれを恐れない。主が共にいてくださいます。

私自身が犯した大罪は決して許されるものではありません。だからといって、今あるこの命を無駄に生きることもしゆるされません。命が与えられる限り最後の日まで生きて償いをしてゆけるように日々作業に励みます。命を大切にしていまいます。

今日一日生かされていることに感謝して、毎日金魚袋製作に励んでいます。この仕事は本当に楽しいので、楽しみです。たくさんの人々の心に、平安を届けられれば、幸いです。

今日は年内の作業製品の最後の出荷を無事に終えました。作業を許可してくださった拘置所と、提供下さった会社へ感謝です。2017年を無事にこれで終えられます。明日からは2018年分の作業になります。また精いっぱい頑張りはげみます。祈り、励まし、お支えください。

死刑確定から、7年経った今

スタッフ 西原瑛子

K君は獄中に聖書を送ってほしい僕みたいな悪人がこれ以上増えないために伝道するから、聖書がほしい。と言ってきた。11年前のことである。

面会に行っても自分にしてもらうことは一つも要求しなかった。お金送ってくれ、切手送ってくれ、差し入れ頼むと要求ばかりする人が多い。しかしさすが代

表者ともなれば自分のことより、他人を思いやるのだなと感心して文通してきた。確定後は親族以外は外部交通できなくなり、毎月請願の手紙を書いても、許されず、教誨師会の会長先生が請願書を書いてくださっても許可されなかった。

私は自分が創作したクッキイはいつも真っ先に彼の写真の前において蔭膳にしていた。私は戦中子だから、出征している家族はみな蔭膳を供えて、どうか死なないでと祈っていたから自然にそうしてしまっていた。

遺族の悲しみ、憤り、切なさは心に重い。殺された人は生き返ってはこない。遺族の方は犯人を殺してしまえば、本当に心が癒されるのだろうか？

生き返ってはこない。

犯人を赦した人に出会ったとき、震えた。その人はこう言った。

私の憎しみは子供も受け継ぐ、子孫がずっと憎しみを引き継ぐことには耐えられない。そして赦したら気持が温かくなった。と。

人を殺した人を殺す死刑も殺人行為である。人の生命を神以外のものが絶つてはいけな思ふ。

自分も殺されるなら、命に命をもって償うのだから、詫びることはないと思う人も出てくる。それでは亡くなった方はうかばれない。心から謝ることが一番大事なこと。だから生きて一生償ってほしい。

死刑を廃止して、終身刑にしたらよいと思つたが、一生獄から出られない終身

刑よりは死刑のほうがましという受刑者もあるので、死刑か終身刑かは受刑者に選択権を与えるようになってほしいというシスターもおられる。

終身刑はまだないが無期の年数は長くなってきている。だから終身刑みたいなのだ。

彼は作業して得たお金をカリヨン子どもセンターや、こどもセンターパオや、国際子ども学校に、寄付し続けている。

昨年10月から彼との外部交通が6年半ぶりに許されて、今は3日に1度は手紙がくるようになった、関西弁で面白く書いてくる。冗談も言えるようになってきた。外部交通が許されてから、心が明るくなって、感謝の念が増えてきているように思う。彼は悔い改めている人だと思ふ。私は死刑は反対である。

こぼれ話

横浜刑務所ではトイレのぞうきんを流しちゃう事件が多発したため、連帯責任で懲罰の意味合いで取り調べが多く、舍房全員が隔離される容易なっています。その果ては刑務所全体でトイレ用のぞうきんを引き上げ、使用させないようにになりました。

同じ横浜刑務所で販売しているボールペンが定価にもかかわらず、インクがすぐに出なくなるらしく、苦情が殺到。最近代わりの水性ペンが買えるよ

うになったとか。

どこの刑務所でもそうですが、なぜ外で108円も出せば10本も買えるボールペンを1本100円近くで売り付ける？新品のはずがすぐにインクが出なくなる。この謎を知りたい方は菊田幸一著の「日本の刑務所」を読んでください。早い話、利益は刑務所と刑務官に還元されています。刑務所所長の送迎会や刑務官が訴えられる際の費用にも充てられているようです。これは憶測ではなく、公文書からも確認できます。

宮城刑務所は11月15日からストーブがつくようになりました。あの寒い宮城県で11月の最低気温はわずか5度ですよ。少なくとも先進国の刑務所ではこんなにひどいところはありません。寒さで懲らしめるという発想が時代遅れではないでしょうか。鼻水を垂らして恨み辛みだけを募る受刑者の姿が浮かびます。そんな環境では反省はできないと思う。

お知らせ

財政難により、入会一年以上の受刑者会員にフルサポートの終了を知らせ、文通のみのサポートへの切り替えを促してきましたが、フルサポートの継続を望む方が多く、1年でフルサポートを終了させる案は事実上、破綻しています。

協議の結果、受刑者会員に関しては、他団体よりサポート内容が充実しているにも関わらず、年会費はその6分の1しか徴収していないのも財政難の要因になっていると判明しました。

そこで新規会員の年会費を2000円としましたが、旧会員にも年会費を2000円に変更したいので、協力できる方は事務局に申し出てください。宜しくお願い致します。

財政難が解消されない以上は、活動の継続は不可能であり、さらに体調不良により、3名のスタッフが休養することになりました。常勤スタッフは二人だけになり、さらに対応が遅くなると思われまます。

無償本の提供と書籍購入の代行は対応できます。ネット検索は大変時間がかかりますし、意思疎通も難しいことから、対応が遅れ気味です。

写真印刷に関しては、L版のコストは家庭用プリンタを使用しているため、割高で、1枚は100円近くかかっています。新規会員には100円の寄付をお願いしていますが、既存会員は50円の寄付のため大赤字です。

経費削減の一環で、黒インクは不要になった他社他機種インクをもらい、詰め替えて使用してきました。それによりプリンタの故障が多くなり、現在は再生品を購入して使用しています。

カラーインクも再生品が販売されており、使用したところ、色の再現レベルが低く、印刷された写真に対して不満も寄せられるようになっていきます。

つきましては写真印刷のサービスは当分中止とさせていただきますので、ご了承ください。多少粗くてもよければ対応できます。

ま と め

- ① 無償本のほか、カンパ協力の書籍リストも用意しました。
- ② 登録料の廃止。
- ③ 年会費は500円から2000円に変更。
- ④ 検索時の寄付は50円から100円に。
- ⑤ 写真はL版で150円に。
- ⑥ 2L版で250円に。
- ⑦ SNSの検索は1000円に。
- ⑧ 検索は1枚100円に。
- ⑨ 転送料は300円に。
- ⑩ 暴力団と性犯罪の再犯者、および薬物常習犯の入会をお断りします。
- ⑪ 送料は文庫本と新書は1冊ごと150円、単行本は1冊ごと250円、写真集は1冊ごと300円とします。
- ⑫ 転送はお断りする場合があります。
- ⑬ 無償本の提供は送料を負担する場合があります。負担してくださる場合は、大きさによって300円もしくは400円をお願いします。
- ⑭ 誕生日カードを用意します。希望の方はお知らせください。
- ⑮ 偲ぶ会を毎月の30日にやります。希望の方はお知らせください。
- ⑯ 料金の変更は承諾した会員にのみ適用する。

編集後記

現在、複数の刑務所から郵送物の中身について照会状がきています。本来ならば過去の記録にさかのぼり、刑務所側に回答すれば、本人交付となるのですが、年末年始の連休に間に合うように、約1か月の間に130件の発送を大急ぎで行ったため、誤発送などのミスも生じました。大変申し訳あり

ませんが、依頼した本が届いていないという方、残高が合わないという方、至急事務局までお知らせください。最優先で対応いたしますので、宜しく願い致します。

事務局の常勤スタッフが体調等の理由で1月からは一人だけになります。在宅スタッフに分担していただく形で調整するように努力していますが、対応の遅れにご理解ください。

ほんにかえるプロジェクトは
会員を募集しています。
正会員の年会費は3000円。
寄付もお待ちしています。
振込先
ゆうちょ銀行 10160-86239211
他行からの場合
ゆうちょ銀行 018 支店
(普) 8623921
口座名義は
ほんにかえるプロジェクト

プロジェクトの活動資金の検出の一環としてオリジナル葉書のほかに小冊子も販売するようになりました。第1冊目は汪が書いた「私の生い立ち」(A5サイズ 88頁)、500円で販売し、その収益は全額支援活動に充てます。好評につき、手作業で増刷中です。

発行所

〒134-0003 東京都江戸川区 春江町 5-15-31 ほんにかえるプロジェクト事務局
責任編集 汪楠 (わんなん)
電話 080-8811-5465